

令和6年度福岡県立図書館協議会 議事概要

1 開催日時

令和6年10月30日（水）10時00分～12時00分

2 開催場所

福岡県立図書館

3 出席者

（1）協議会委員 9名

（原 正和／青木 美佳／峰 恵／一ノ瀬 留美／杉山 美智子／古田 雅憲／
矢崎 美香／安永 寛／岡本 洋幸）

（2）本庁主管課 1名

（3）事務局 12名

※ 傍聴者 1名

4 議題

（1）報告・説明

①令和5年度運営状況に関する評価結果について

②令和6年度重点取組について

- ・電子書籍団体利用サービスの実施について
- ・子ども読書活動支援に対する取組について
- ・資料のデジタル化について
- ・読書バリアフリーに対する取組について

（2）協議

「これからの県立図書館に求められるもの」

（平成14年福岡県立図書館協議会提言を踏まえて）

5 議事内容

（1）報告・説明

資料に基づき、事務局から説明。

<質問・意見等>

（委員）

Web 利用登録の説明の際、ユーモラスな画像が使われていたが、このような工夫が広報等において大事だ。

また、先程の説明でデジタルライブラリにある古い地図を見せてもらった。私の図書館で

も昔の地図への問い合わせが多い。ゼンリン地図などを提供するが、それ以上を求められた場合については県立図書館を紹介している。

質問が2点ある。ネット経由で利用登録しているのは若い人たちか。電子書籍団体利用の利用者はどんな端末で見ているか。

（事務局）

Web 利用登録について、20 代から 50 代の方が多いと感じている。ただ、70 代でも Web で登録される方はいる。

（事務局）

電子書籍団体利用について、団体としては学校であるが、実際に利用するのは児童生徒ということになる。学校に生徒の人数分 ID を渡している。図書館から使い方の条件などは付けていない。学校で一人一台端末のタブレットを使う場合もあるが、帰宅後に個人のスマホで読むということもあると聞いている。

（委員）

本屋でも絵本の読み聞かせや、その練習会を行っている。読み聞かせについては、親への研修が必要だと感じる。子供たちはゲームをしたり、テレビを見たりで、寝る前 30 分が読み聞かせのチャンスとして大事だ。親だけでなく、祖父母にやってもらうのもよい。本屋でも講師を呼んで親向けの研修会をしているが、図書館でも行ってもらえるとよい。

（事務局）

県立図書館でも、親向けの研修会はかつて行っていたが、参加者減少で取りやめたと聞いている。

（委員）

せっかくの御意見なので、検討して良い方策を考えていただければと思う。

協議質疑応答

（委員）

郷土資料データベースは学校教育でも有用だ。県立図書館には、市町村の出版物のデジタル化や収集に期待する。ホームページ上での本の横断検索が大変便利だが、県内図書館の郷土資料、地図などもデータベース化して、そのように検索できるとよい。福岡県は産業も文化もバラエティーに富んでおり、日本の縮図と言われる。学校図書館協議会では読書感想文コンクールを行っているが、応募作のレベル低下を憂慮している。非常に厳しい状況だが、子供たちへの読書推進は大事なことだ。

(委員)

目が見える人が読める本は多くあるが、バリアフリー資料は少ない。

(委員)

目の不自由な子供たちに本を届けることは、情緒教育としても重要だ。

(委員)

そもそも録音図書が世間に知られていない。録音図書は点字図書館にあるものと思われがちだが、県立図書館にも音訳の会が作ったものが多い。視覚特別支援学校向けに録音図書を製作しようと思うが、学校によってそれぞれニーズが違うようだ。闇雲に作るわけにもいかない。児童生徒向けに録音図書を作ったとして、それを視覚特別支援学校に届けることはできるのか。

(事務局)

1点1点を届けるということには行っていない。特別支援学校等学校貸出図書セットとして貸出しているので、ある程度まとまった量になれば新たなセットとして組み上げることは可能だと思う。教職員個人に貸すことは1点から可能である。

(委員)

貸出や配送の方法を、どのようにすればいいのかは課題ではある。

(委員)

視覚に障がいのない人にはありとあらゆるものがあるが、点訳のものはない状況がまだある。先生方に本を薦めてもらっても、点字版など、視覚障がい者が読める形のものがないことがままある。利用可能な資料を探すにはサピエ(※)に頼らざるを得ないが、全国の視覚特別支援学校で加入しているのは15%と聞く。学校は財源がなく加入できないので、ボランティアや先生方による点訳に頼っている状況にある。

【※サピエとは、視覚障がい者向けのバリアフリー図書を検索、利用できるWeb上のサービスです。】

(委員)

全県的なデジタルアーカイブの構築、子供の読書推進の取り組み活性化について提言いただいた。バリアフリー図書についても、ニーズのすり合わせが重要と感じる。

(委員)

非来館サービスについて、県立図書館のホームページトップからわかりやすく導線を工夫してほしい。また、視覚に障がいがある人等のためにも、チャットボットなどがあるとよ

いのではないか。他館の紹介や案内など、必要な情報にたどり着くまでを含め、統合的なサービスとして考えてほしい。

（委員）

トップページのリンクの貼り方には工夫が必要であるし、チャットボットのような機能が入ると、利用者としては使いやすいであろう。

（事務局）

バリアフリー図書が知られていないことに対して、バリアフリー図書読書体験会を行っている。昨年度は2回行ったが、今年度はさらに増やそうと取り組んでいる。さらなるPRについて考えていきたい。また、県点字図書館から学校との連携について相談を受けており、学校図書館協議会と話し合いの場を設定したいと考えている。

（委員）

館内の目立つところに録音図書のポスターなどがあるとよい。本館エントランスホールの看板は中からだけでなく、外からもよく見えるようにするとよい。館内に入らない人にもアピールできるよう、有効活用してほしい。

（委員）

デジタル化の進展で、図書館利用者自体は減るかもしれない。これからの図書館に期待されることとして、自分のこれからの模索できるような居場所や、学びなおし、リスクリングの場所の提供といったことが考えられる。こういったことは、石川県立図書館でも意識されているようだ。

（委員）

石川県立図書館は大変よかった。福岡県立図書館は夏に、場所によって空調が効きにくいところがある。何とか改善していただけるとありがたい。

（委員）

岡山県立図書館や長崎県大村市にあるミライON図書館に行ったが、きれいな施設で広い駐車場があり、よいと思った。職員の方も研修に行ってみるとよいと思う。福岡県でも施設改善のため予算を取ってほしい。

（委員）

親への読み聞かせ指導について、直接行うのは市町村図書館であろう。地域の課題解決は市町村図書館で行い、県立図書館はその支援をしていただくところだと思う。県立図書館には、市町村図書館への支援、職員の研修や郷土資料のデジタル化を期待する。福岡県立図書館の市町村支援は、全国でもトップレベルではないか。よくしてもらっている。

（委員）

良いサービスを行っていて、私たちの図書館も支えられていると思う。研修に参加した際は、館内でレポートを共有している。大変助かっている。

（委員）

今日の協議会では、意見交換の時間が少なかった。協議会の目的として、意見の吸い上げが大事であるので、時間配分を考え直してほしい

（委員）

来年に向けていろいろと検討していただけるとありがたい。

（事務局）

大変貴重な意見を多くいただいた。デジタル化やホームページ刷新について丁寧に説明したかったため、意見交換の時間が短くなってしまったことは反省点である。施設等もかなり古くなっており、制約も多いが、本日いただいたアイデアを参考に工夫改善を図りながら、今後の運営、課題解決に取り組んでまいりたい。